

平成25年岐阜県観光入込客統計調査

平成26年10月

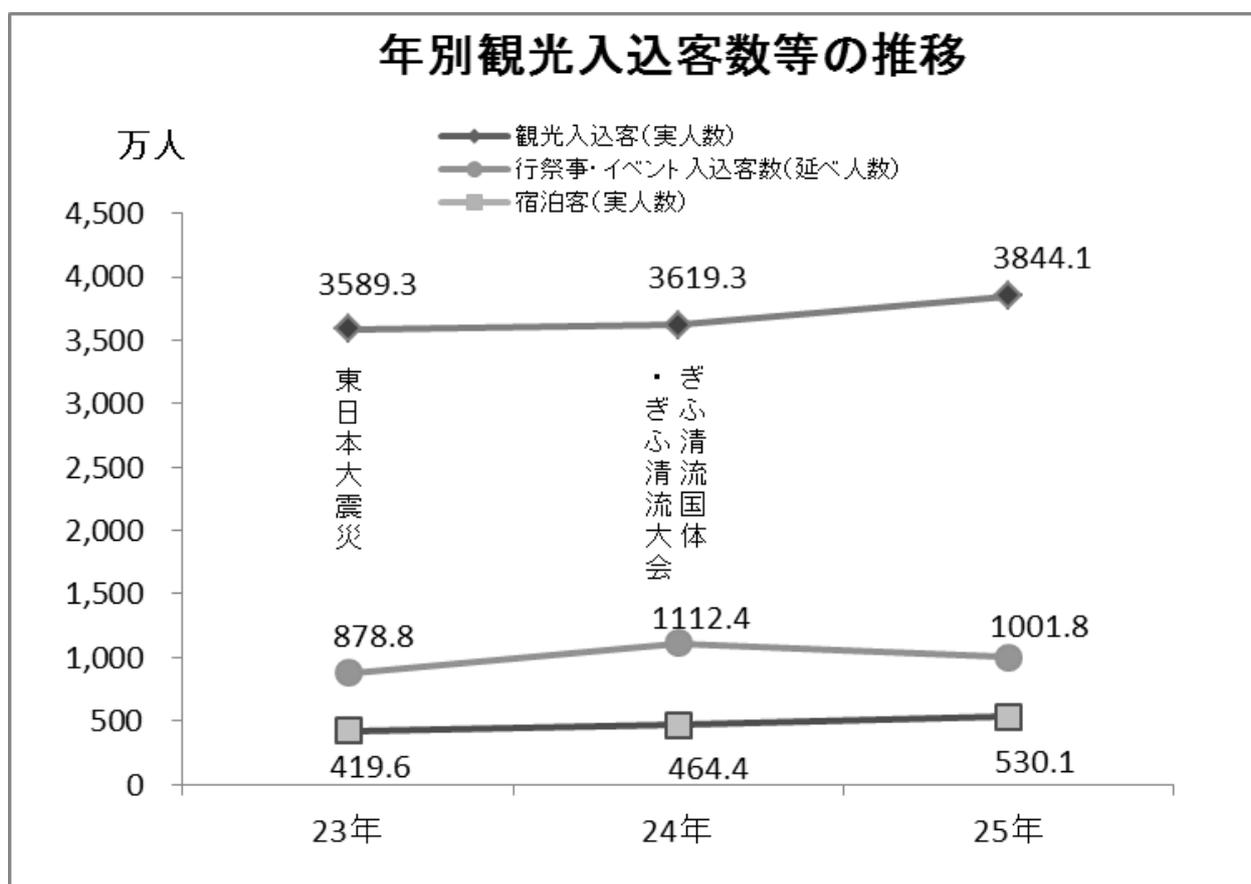
観光課

1 観光入込客数

(1) 県全体の動向

平成25年の観光入込客数（実人数）は、前年と比較して、日帰り客数（前年比+5.0%）、宿泊客数（前年比+14.2%）ともに増加し、全体では前年比+6.2%の3,844万1千人となった。

また、行祭事・イベント入込客数は、延べ1,001万8千人（前年比▲9.9%）となり前年より減少した。



区 分		平成25年（対前年比）	参考：平成24年
観光入込客数（実人数）	全 体	3,844万1千人（+6.2%）	3,619万3千人
	日 帰 り	3,314万 人（+5.0%）	3,155万 人
	宿 泊	530万1千人（+14.2%）	464万4千人
行祭事・イベント入込客数（延べ人数）		1,001万8千人（▲9.9%）	1,112万4千人

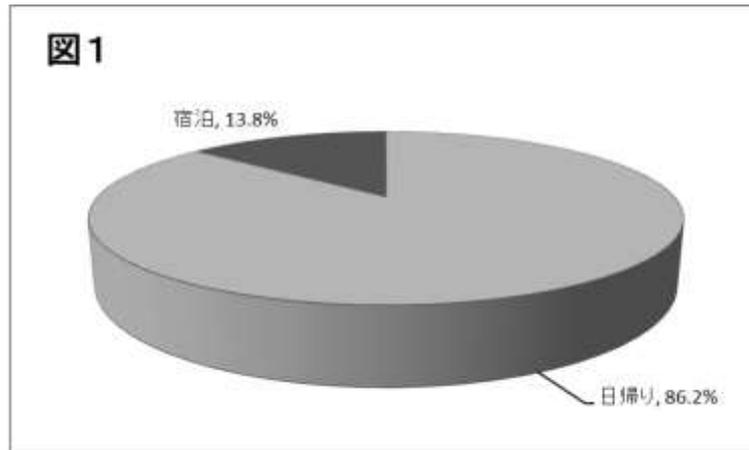
※平成23年の調査より、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」を導入し、調査手法を変更している。

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

① 日帰り・宿泊別観光入込客数

平成25年の観光入込客数は3,844万1千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は3,314万人、宿泊客は530万1千人であり、依然として日帰り客が多いものの、宿泊客の占める割合は前年より1.0ポイント増加した。

(図1)

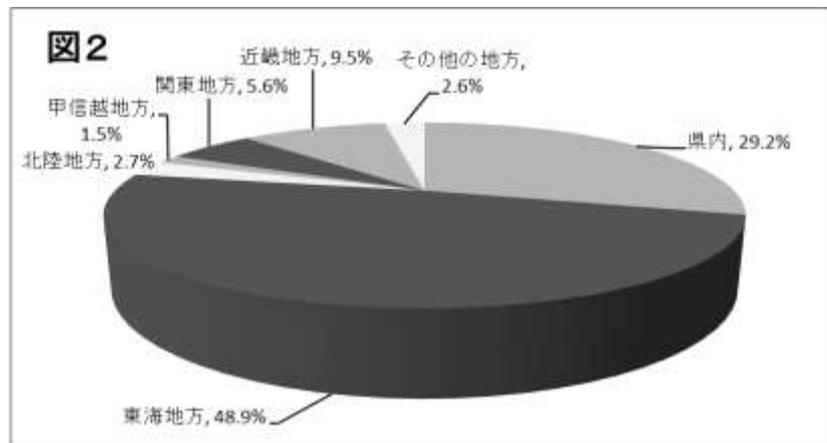


圏域別に見ると、中濃圏域が日帰り客の割合が最も高く（構成比96.5%）、西濃圏域・東濃圏域についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客49.3%、宿泊客50.7%と宿泊客の割合が日帰り客の割合より高く、飛騨圏域の宿泊客298万8千人は県全体の宿泊客の56.4%を占めた。

② 居住地別観光入込客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は1,120万6千人（構成比29.2%）、県外客は2,723万5千人（構成比70.8%）と、県外客が多くを占めた。特に飛騨圏域では県外客の割合が79.3%と高い。（図2）



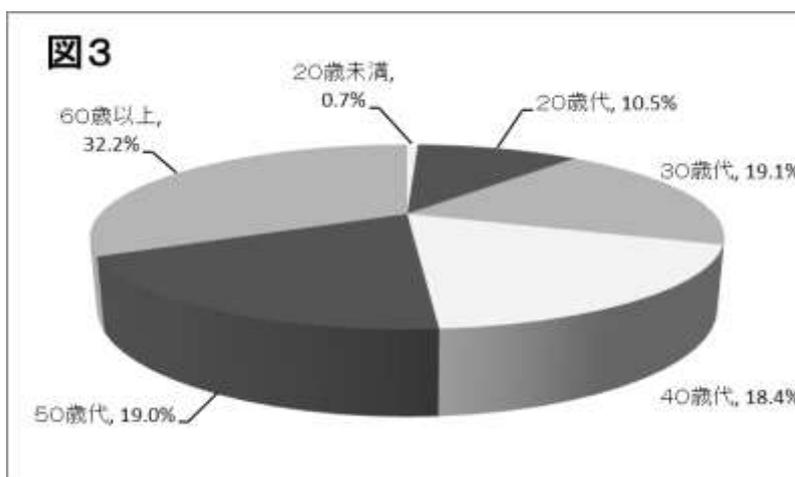
県全体では、県外客のうち69.0%が東海地方からの観光客であり、以下近畿、関東

地方と続いている。前年に比べ、東海、関東、その他の地方からの観光客の割合が高くなった一方、県内、北陸、甲信越、近畿地方からの観光客の割合が低下した。

③ 男女別・年齢別観光入込客数

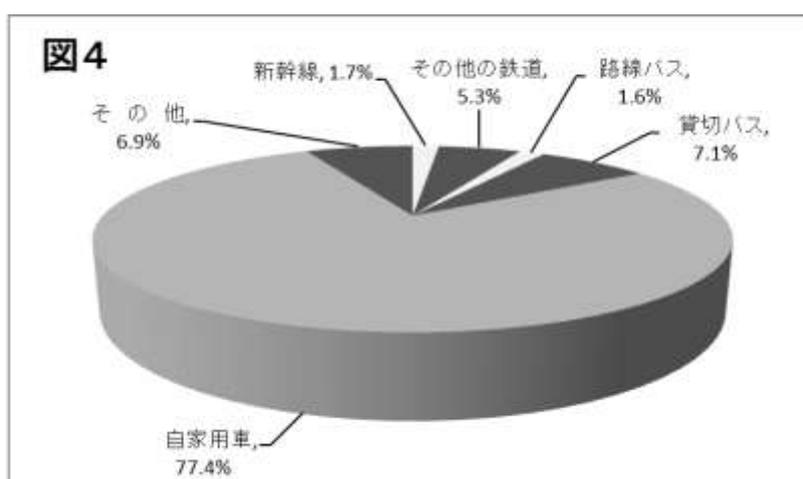
男女別で見ると、男性が2,200万1千人（構成比57.2%）、女性は1,644万人（構成比42.8%）と前年に引き続き、男性が多かった。

年齢別では、60歳以上が32.2%と最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている。（図3）



④ 利用交通機関別観光入込客数

利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の77.4%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。（図4）



⑤ 同行者別観光入込客数

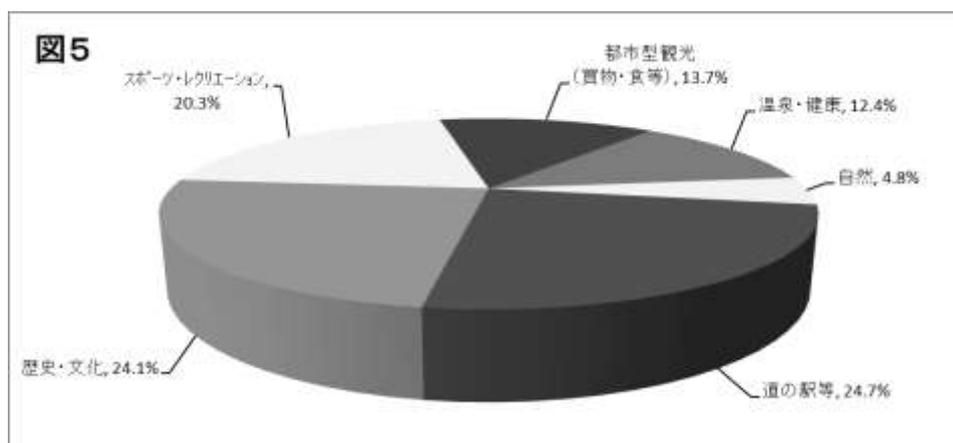
同行者人数別に見ると、「2～3人」が最も多く全体の62.7%を占め、続いて「4～5人」が19.4%であった。

「団体旅行」（11人以上）の割合は全体の4.1%にとどまり、少人数による観光形態が主流となっている。

同行者別に見ると、「家族」が76.5%と最も多く、次いで「友人」15.6%と続く。

⑥ 観光地分類別観光入込客数

観光地分類別に見ると、「道の駅等」、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」の順に多く、以下、「都市型観光（買物・食等）」、「温泉・健康」、「自然」と続く。（図5）



⑦ 観光地点毎の入込客数のトップ10

観光地点毎の入込客数の県内トップは、「土岐プレミアム・アウトレット」（土岐市）で566万5千人となった。2位が「河川環境楽園（アクア・トトぎふ含む）」（各務原市）で460万2千人、3位が「高山地域」（高山市）で298万9千人となり、1位から3位までの地点の順位に変動はなかった。

（単位：万人）

順位	観光地点名	入込客数	参考：24年	
			順位	入込客数
1	土岐プレミアム・アウトレット	566.5	1	550.5
2	河川環境楽園（アクア・トトぎふ含む）	460.2	2	417.4
3	高山地域	298.9	3	250.6
4	千代保稲荷神社	189.4	4	194.4
5	伊奈波神社	149.7	6	154.7
6	千本松原・国営木曾三川公園	144.7	7	130.1
7	白川郷合掌造り集落	123.9	9	117.7
8	世界イベント村ぎふ	120.7	5	164.4
9	下呂温泉	115.9	8	118.8
10	岐阜公園	93.0	10	85.0

<参 考>

1人当たり平均訪問地点数（「観光地点入込客数（延べ人数）」を「観光入込客数（実人数）」で除したものは、1.7地点で、四半期別に見ると、1～3月が1.9地点、4～6月が1.7地点、7～9月が1.8地点、10～12月が1.6地点であった。

また、同一施設における1人当たり平均宿泊数（「宿泊客数（延べ人数）」を「宿泊客数（実人数）」で除したものは、1.1泊で、四半期別に見ると、1～3月が、1.1泊、4～6月が1.4泊、7～9月が1.1泊、10～12月が1.1泊であった。

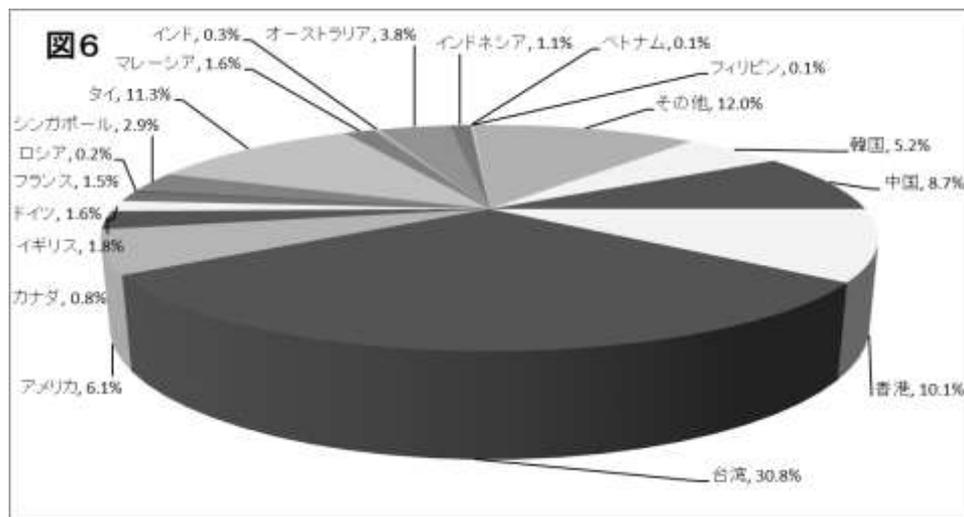
（2）外国人宿泊客数

外国人の宿泊客数（実人数）は28万4千人（前年比+40.8%）となった。平成23年から2年連続で増加となった。

区 分	平成25年	参考：平成24年
外国人宿泊客数（実人数）	28万4千人（+40.8%）	20万1千人

○外国人宿泊客の国籍（出身地）内訳

国籍（出身地）別外国人宿泊客数は1位が台湾で30.8%、2位がタイで11.3%、3位が香港で10.1%となった。（図6）



（注）出典：観光庁「宿泊旅行統計調査報告」従業者数10人以上の宿泊施設の数値を使用

(3) 行祭事・イベント入込客数

平成25年の行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は1,001万8千人（前年比▲9.9%）であった。

○行祭事・イベント毎の入込客数のトップ10

行祭事・イベント毎の入込客数の県内トップは、昨年と同じ「長良川花火大会」（岐阜市）で67万人、2位が「ぎふ信長まつり」（岐阜市）で37万人、3位が「土岐美濃焼まつり」（土岐市）で32万人となった。

（単位：万人）

順位	行祭事・イベント名	入込客数	参考：24年	
			順位	入込客数
1	長良川花火大会	67.0	1	70.0
2	ぎふ信長まつり	37.0	3	40.0
3	土岐美濃焼まつり	32.0	6	29.0
4	郡上おどり	30.5	8	25.5
5	高山祭	30.3	5	33.3
6	元気ハツラツ市 <small>（大垣市）</small>	30.0	8	25.5
7	日本ライン夏まつり納涼花火大会 <small>（各務原市）</small>	27.0	10	23.0
8	刃物まつり <small>（関市）</small>	25.0	7	26.0
8	各務原市桜まつり	25.0	14	19.0
10	多治見茶碗まつり	23.0	10	23.0

2 各圏域の動向

圏域別に観光客数をみると、東濃圏域のみ減少となったものの、その他の地域はいずれも増加した。

東濃圏域では、宿泊客数は増加したものの、日帰り客数が減少し、全体として減少した。一方、中濃圏域では、宿泊客数は減少したものの、日帰り客数が増加し、全体として増加した。また、岐阜圏域、西濃圏域、飛騨圏域では、日帰り客数、宿泊客数ともに増加した。

また、行祭事・イベント入込客数をみると、前年、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催により増加していたことから、今回は全域で減少となった。

<圏域別観光入込客数、行祭事・イベント入込客数>

(単位：万人)

	日帰り客数	宿泊客数	観光入込客数(実人数、合計)	行祭事・イベント入込客数(延べ人数)
岐阜圏域	680.8	109.8	790.6 (+13.6%)	292.5 (▲17.1%)
西濃圏域	698.8	41.5	740.3 (+8.6%)	240.4 (▲7.2%)
中濃圏域	807.5	29.0	836.5 (+1.9%)	177.8 (▲2.6%)
東濃圏域	836.6	51.0	887.6 (▲0.3%)	219.5 (▲1.6%)
飛騨圏域	290.4	298.8	589.2 (+11.0%)	71.6 (▲24.5%)
合計	3314.0	530.1	3,844.1 (+6.2%)	1,001.8 (▲9.9%)

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

① 岐阜圏域

- 観光入込客数は790万6千人で、前年と比べて94万8千人の増加(対前年比+13.6%)となった。このうち、日帰り客数は680万8千人となり、前年に比べ67万6千人増加(対前年比+11.0%)した。また、宿泊客数は109万8千人と27万2千人増加(対前年比+32.9%)した。
- 観光地点別についてみると、旅行口コミサイトにも取り上げられた「岐阜県世界淡水魚園水族館(アクア・トトぎふ)」、また同施設が位置する「河川環境楽園」が増加した。
- 行祭事・イベント別入込客数についてみると、前年天候不順であった「航空祭」が天候に恵まれ増加した一方で、降雨などの天候不順により、多くのイベントを中止した「道三まつり」が減少した。

② 西濃圏域

- 観光入込客数は740万3千人で、前年と比べて58万5千人の増加(対前年比+8.6%)となった。このうち、日帰り客数は698万8千人となり、前年に比べ49

万6千人増加（対前年比+7.6%）した。また、宿泊客数は41万5千人と8万8千人増加（対前年比+27.1%）した。

- ・観光地点別についてみると、イベント開催時の天候に恵まれた「千本松原・国営木曾三川公園」が増加した一方、降雪量が少なかったことなどにより、「揖斐高原貝月リゾート」、「国見岳スキー場」で減少した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、開催頻度を増やした「元気ハツラツ市」や、天候に恵まれた「チューリップ祭」、「輪之内ふれあいフェスタ」などが増加した一方、降雨などの天候不順により、「大垣まつり」が減少した。

③ 中濃圏域

- ・観光入込客数は836万5千人で、前年と比べて15万5千人の増加（対前年比+1.9%）となった。このうち、日帰り客数は807万5千人となり、前年に比べ17万人増加（対前年比+2.2%）した。一方で、宿泊客数は29万人と1万5千人減少（対前年比▲5.1%）した。
- ・観光地点別についてみると、11月に「湯の華市場」、12月に「湯の華食堂」を続けてオープンした「湯の華アイランド」が増加した一方、今シーズンから休止となった「日本ライン下り」や、紅葉の期間が短かったことなどにより「大矢田もみじ谷」が減少した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、メディアへの露出もあり「國田家の芝桜」が増加した一方、降雨などの天候不順により、「おん祭 MINOKAMO 秋の陣」が減少した。

④ 東濃圏域

- ・観光入込客数は887万6千人で、前年と比べて2万4千人の減少（対前年比▲0.3%）となった。このうち、日帰り客数は836万6千人となり、前年に比べ14万人減少（対前年比▲1.6%）した。一方で、宿泊客数は51万人と11万6千人増加（対前年比+29.3%）した。
- ・観光地点別についてみると、メディアへの露出も多かった「馬籠宿」が増加した一方、「たじみ創造館」、「セラミックパーク MINO」、「美濃焼伝統産業会館」などが減少した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、ディズニーパレードなどを同時に開催した「多治見まつり」が増加した一方、降雨などの天候不順により、「美濃焼伝統工芸品まつり」が中止となり、純減した。

⑤ 飛騨圏域

- ・観光入込客数は589万2千人で、前年と比べて58万4千人の増加（対前年比+11.0%）となった。このうち、日帰り客数は290万4千人となり、前年に比べ38

万7千人増加（対前年比+15.4%）した。また、宿泊客数は298万8千人と19万7千人増加（対前年比+7.0%）した。

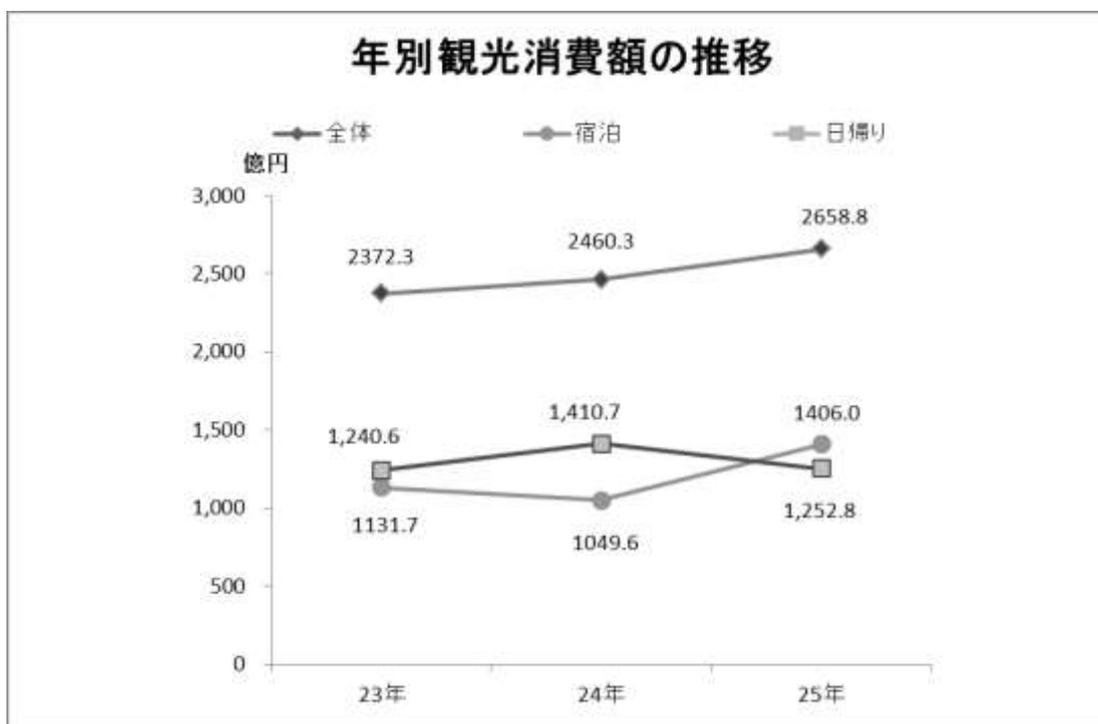
- ・観光地点別についてみると、外国人利用客の増加などにより「高山地域」、「白川郷合掌造り集落」が増加した一方で、天候不順などにより、「北アルプス（登山）」が減少した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、降雨などの天候不順により、秋の「高山祭」が一部中止となり、減少した。

3 観光消費額

平成25年の観光消費額の総額は2,658億77百万円（対前年比+8.1%）で、うち日帰り客分は1,252億80百万円（対前年比▲11.2%）、宿泊客分は1,405億97百万円（対前年比+34.0%）であった。

また、一人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,780円（対前年比▲15.5%）、宿泊客は26,522円（対前年比+17.3%）であった。

宿泊客分は、宿泊客数、宿泊客一人当たりの平均消費額がともに増加したため、増加した一方で、日帰り客分は、日帰り客数は増加したものの、日帰り客一人当たりの平均消費額が減少したことにより減少した。全体の観光消費額は、前年と比べて増加した。



区 分	観光消費額 (対前年比)	参考：平成24年
全 体	2,658億77百万円 (+8.1%)	2,460億29百万円
日帰り	1,252億80百万円 (▲11.2%)	1,410億70百万円
宿 泊	1,405億97百万円 (+34.0%)	1,049億59百万円

4 経済波及効果（試算）

平成25年の生産誘発額は4,063億58百万円、就業誘発効果は39,130人となった。

<参考>

可児市の製造品出荷額等 4,281 億 72 百万円（H24 岐阜県工業統計調査）

※県全体（5兆81億58百万円）の8.5%

瑞浪市の人口 39,006 人（H26.8.1 推計人口）

※県人口（2,042,875 人）の1.9%

<参 考>

○調査の概要

本調査は、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」（平成25年3月改定）に基づき、実施したものである。

1. 調査期間

平成25年1月1日から平成25年12月31日まで

2. 調査対象観光地点等

①観光地点の定義

- ・非日常利用が多いと判断される地点。
- ・観光入込客数が適切に把握できる地点。
- ・前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である地点。

②観光地点等の分類

観光地点等の分類は以下の区分による。

■観光地点	
自然	山岳、高原、湖沼、河川、海岸、海中、島、その他自然（エコツーリズム、グリーンツーリズム等）
歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
温泉・健康	温泉地、その他温泉・健康
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリーナ・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
都市型観光 一買物・食等一	商業施設、地区・商店街、食・グルメ、その他都市型観光一買物・食等一（農水産品の直売所、物産館等）
道の駅等	他に分類されない観光地点（道の駅、パーキングエリア等）
■行祭事・イベント	行・祭事、花見、初詣、花火大会、郷土芸能、地域風俗、博覧会、コンサート、スポーツ観戦、映画祭、コンベンション・国際会議、他に分類されない行祭事・イベント

3. 調査プロセス

(1) 観光地点等入込客数調査

統計の基礎となる観光地点等ごとの入込客数（延べ人数）を把握する。

(2) 観光地点パラメータ調査

県内の15観光地点を訪れた観光客を対象に調査を行い、属性別の構成比、平均訪問地点数、平均消費額単価などのパラメータを算出する。

(3) 観光入込客数（実人数）・観光消費額単価・観光消費額の推計

上記（1）、（2）及び観光庁より提供される以下のデータを用いて推計する。

- ・観光目的別・居住地別の宿泊観光入込客数
- ・ビジネス目的・県外の日帰り観光入込客数
- ・観光目的別・宿泊／日帰り別の訪日外国人の観光消費額単価
- ・ビジネス目的・宿泊／日帰り別、県内／県外別の観光消費額単価
- ・観光／ビジネス別、県内／県外別実家・キャンプ場等利用補正係数